

支え合い、未来へつなぐ、えすこな交通

計画に取り組む皆さんそれぞれの役割・使命です。

まずは、乗ってみる

市民は、公共交通の利用者として、まず自らが利用します。一人ひとりの利用が、地域の公共交通を支えます。



取り組むこと

自分自身が乗ってみる、家族・友人・知人と一緒に乗ってみる 等

安全・安心な運行で、暮らしを支える

交通事業者は、安全・安心に利用できる交通環境を提供します。また、利用者の声を反映したサービス改善や、新たな技術・サービスの導入に取り組めます。

取り組むこと

・安全・安心な運行を継続する
・事業者間での連携や協力 等

市民

交通事業者

地域
(地域自主組織)

みんなで使う きっかけをつくる

地域は、交通事業者と市民をつなぐ役割を担います。また、地域の活動や行事を通じて公共交通を利用する機会をつくり出します。

取り組むこと

独自のチラシ作成など、地域に合わせた利用方法を考える 等

行政
(市)

地域活動団体

制度を整え、総働の取組を支える

行政は、効率的で持続可能な交通体系の構築に向けて、制度設計や財政支援を行います。また、地域や交通事業者など、多様な主体による総働の取組を支えます。

取り組むこと

安全で安定的な運行を支える基盤を整備する 等

日々の活動から、公共交通の利用を広げる

地域活動団体は、それぞれの活動分野やネットワークを生かして公共交通と連携します。また、地域の移動手段を支えるパートナーとして、公共交通の利用につながる取組を進めます。

取り組むこと

高齢者など、公共交通を必要とする方々への情報提供に取り組む 等

バスに乗って、まちへ出かけよう

クルマはとっても便利な乗り物です。でも、バスや鉄道などの公共交通には、もっと「えすこ（良い具合）」なものがあります。一人ひとりの「乗る」が、まちの交通の未来を支えます。毎日の暮らしの中で、ちょっとだけクルマを離れ歩いて、バスや鉄道に乗って、だんだんタクシーに乗っていつもと違った景色を見てみませんか。



雲南市地域公共交通計画【概要版】
2026年10月策定

雲南市政策企画部うなん暮らし推進課交通政策室
〒699-1392 島根県雲南市木次町里方 521-1
TEL：0854-40-1014 FAX：0854-40-1029

もっと詳しく知りたい方へ 詳細なデータや分析結果などについては、市のホームページにある「本編」「資料編」をご覧ください。

みんなでつくる、えすこな交通

雲南市地域公共交通計画【概要版】

計画の趣旨

雲南市は、人口減少や運転手不足など、交通を取り巻く大きな変化に直面しています。こうした状況から、将来にわたって誰もが安心して移動できる、もっと便利で、もっとあたたかい「えすこ（いい具合）」な公共交通を市民の皆さんと「総働」でつくり、守っていくための大切な指針として、この計画を策定しました。

計画の区域：雲南市全体 2026年10月～2031年9月

雲南市のめざす未来



市民の暮らしと公共交通の「ズレ」を解消する



だんだんタクシーを活かして誰もが使いやすいサービスにする



通学環境を改善し、公共交通を利用しやすい環境に整える



交通の「担い手」が、未来に希望を持てる事業環境を創る



公共交通を「他人ごと」から「自分ごと」へ変える

アンケート調査から見てきた5つの課題を踏まえ、雲南市は以下の基本理念と基本方針を掲げ、市民の皆様とともに公共交通の未来を「総働」で創造していきます。

基本理念

「総働」でつなぎ、支え合う、市民みんなの公共交通

～持続可能で、誰もが暮らしやすい「えすこな雲南市」をめざして～

基本方針

1

毎日の暮らしに、もっと便利で、やさしい交通をつくろう

皆さんの「こうだったらいいな」の声に応えるため、だんだんタクシーの使いやすさ、通学運行のルール、そして毎日使うバスのあり方を、みなさんの今の暮らしに合わせてつつ、交通の役割分担も考えながら、しっかりと見直していきます。

基本方針

2

プロの技と地域の力、力を合わせて支え合いの輪を広げよう

バスやタクシーといった「プロの交通」と地域が行う「助け合いの交通」。それぞれの強みを活かし、足りないところを補い合うことで、誰もが安心して移動できる、新しい総働の形をめざします。

基本方針

3

交通の担い手を応援し、交通環境を未来につなげよう

私たちの暮らしを支えるバス・タクシーの運転手さんや事業者さんが、これからも誇りを持って働き続けられるように、地域全体で応援し、安定して事業を続けられる環境づくりを進めます。

5年後、こんな風に暮らしています

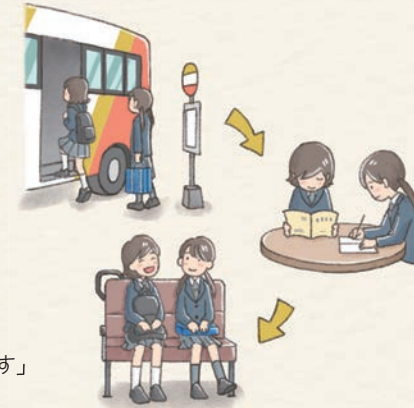
75歳のAさん（掛合地域）の1日

朝8時 Aさんは、スマホでだんだんタクシーを予約しました。
「明日の10時に、家からドラッグストアまでお願いします」
操作は簡単。孫に教えてもらってから、自分でできるようになりました。
翌日10時 予約した時間に、だんだんタクシーが自宅前に到着。
ドラッグストアの前で友人のDさんと待ち合わせて、一緒にバスで
お出かけ。
「二人で乗れば、話もできるし、楽しいわね」
昼食を食べて、スーパーで買い物。
帰りは優待乗車券を使ってタクシーで帰宅。
「昔は息子に送ってもらっていたけど、今は自分で気兼ねなく出かけ
られるようになりました」



高校生のBさん（加茂地域）

Bさんは三刀屋高校掛合分校に通学しています。
朝7時半、自宅近くのバス停からバスに乗って高校へ。
友達とおしゃべりしながら、直通便なので乗り継ぎなしで高校に
到着します。
帰りはバスと鉄道を乗り継いで帰宅。
途中、木次駅で少し待ちますが、冷暖房が整った環境で、
勉強しながら快適に待てました。
これまで帰りは親に迎えに来てもらうこともあったけど、
バスの時間が帰りやすくなって、今は自分で帰れます。
「お母さんも仕事があるから、自分で帰れるようになって喜んでます」



子育て中のCさん（三刀屋地域）

Cさんは乗り物好きの5歳の息子
と一緒に出かけ。
木次線に乗ろうと思いましたが駅
まで少し遠いので、自宅から駅ま
でだんだんタクシーで。
運転しなくていいから、外の景色を
みながら息子と会話がはずみます。
「あ、トラックとバスが並んでる！」
「〇〇ちゃんのお家が見える！」
「駅にもいろいろな車の車両があるよ！」
クルマだと見えない景色が見えて楽しいね。



えすこな交通ネットワーク

各種調査結果から、地域ごとに移動ニーズや公共交通の利用状況が大きく異なることがわかりました。

そこで、市内をA（大東・加茂）、B（木次・三刀屋）、C（吉田・掛合）の3つのゾーンに区分して、ゾーン単位で公共交通の仕組みを見直します。

